

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 もみじの里

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 介護支援専門員経験6年

評価調査員 在宅介護経験9年

[自主評価結果を見る](#)

[評価項目の内容を見る](#)

[事業者のコメントを見る\(改善状況のコメントがあります!\)](#)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「こんにちわ」と訪問すると利用者がにこっと笑顔で迎えてくれる。以前訪問した時より何だか「若くなった、元気になった」顔が嬉しい。管理者は「利用者・職員共にこの宝です。利用者さんには心地よく過してもらい、職員は楽しく働きやすい場にしていきたいです。そのために職員がいっぱい提案して、皆で検討し、利用者の心地よい生活を保ちたいと願っている」と言う。

心地よい生活は個別支援計画が物語っている。自分のやりたいこと、こんな事が叶えられるといいな、と思っていることを具体的に引き出して実現できるよう日ごろの生活から積み上げているよう努力している。元気一杯のホームを見せてもらった。

「自分ひとりでは叶えられない夢を具体的に表現できるように」を支援してもらいながら、自分らしさを出していける楽しみのあるホームである。

このホームは、知的障害者を対象に支援している。開谷福祉会が母体となり、平成16年3月に設立した。知的障害者も高齢化すると認知症になることは当然のことであるが、普通の高齢者と知的障害者が一緒に生活することを実現させたホームだった。設立当初から4年間、このホームの外部評価をさせていただいているが、どんな人でもここでは穏やかに、そして、生き生きと暮らしている姿を見せてもらった。慣れた職員のケアの効果もあるだろうが、色々の障害者を色メガネで見るのではなく、誰とでも『心の通い』さえあれば一人の人間として付き合っていける。一歩進んで高齢者ケアの在り方をこのホームで学ぶことが出来た。

特に改善の余地があると思われる点

利用者の支援をもっと充実させるために利用者の視点を重視する介護計画が作成できる事を期待する。そして個人記録に利用者の気持ちを表わす言葉や会話を残してもらいたい。これらが24時間ホームで生活する利用者の姿を表わすものになれば素晴らしい。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 管理者、職員は理念を十分に理解し、「人として居心地のよい、生活の場」を目指している。</p> <p>2. 全体的に見て…: 「高齢者、障害者、職員共に大切な宝です。私は、長い間障害者と関わってきた。いつも『この子のことを思うと将来が心配で』という家族を見て地域で安心して共に生活の出来る場を作ろう」と管理者は言う。そのためには「利用者は心地良い生活の場を」「職員は楽しく働ける場を」共に大切な宝物として、一人ひとりのしたいこと、出来る事を伸ばしているようにしている意欲が感じられた。それは、利用者の若々しく輝いている笑顔を見ていると、その実践が証明される。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 利用者が自分の役割を持ち、行動することにより生活に張りを持っている姿が生活空間の中に存在しており、幸せな生活を送っていることを物語っている。</p> <p>2. 全体的に見て…: 明かりが気になる人にはもみじの模様で作った目隠しがあり、入所して間のない人に対して職員は、みんなの中に馴染んでもらうためにレクリエーション時のちょっとした配慮をしたり、家族との協力を自然に安心して生活できる場を提供し、また、帰宅願望の強い人には「いつでもタクシーを利用できるお金は預かっている」ことを伝えて安心してもらっている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 個人情報の収集についても一人ひとりのその人らしい生活ができるように、しっかりと把握しておき、介護計画作成のプロセス上の各ポイントを再検討して、改善していくと考えている。改善の結果を期待している。</p> <p>2. 全体的に見て…:</p> <p>夜間転倒の危険性があり、今度転倒すると車椅子の生活になる危険性のある利用者については、家族の同意を得て夜間の部屋での動きを察知できる工夫をしている。そうする事により本人のプライバシーが守れなくなる点については、職員は充分考慮して行っている。</p> <p>利用者の出来る事、したいなと思う事が少しでも出来るように、また、楽しみが増えて良かったと思えるように生活の中で取り組みをしている。例えば、旅行に行ったり、家族と一緒に津山の足湯につかったり、親族を訪問したり、墓参りに行けるように日々歩くりハビリを行っている。その達成感が利用者自身を生き生きとさせて、若返ったと実感してもらえるようにしている。そして、次の行動につながっていく意欲が生まれてくる様子が感じられた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 生活の質の向上のために、職員の研修や人材の確保をして、家族との交流に取り組んでいこうと考えている。</p> <p>2. 全体的に見て…: 法人と合同で認知症研修を行い、管理者は労働安定センターでの「介護についての」の講義を受け持ち、より質の高いサービスを自己研鑽し、ホームにおけるケアやサービスの質の向上を目指している。また、ホーム内研修においては心肺停止、てんかん発作等の知識の習得、緊急搬送等有事に対する取り組み方等を研修している。また、ホームのすぐ前が県道のため交通量が多く事故の心配があるため、利用者には常に目配り、気配りをするよう心がけている。</p>		